

# 別子山の 自治会活動について

別子山連合自治会 会長  
**和田 輝世伸**  
(新居浜市)



## 私達の住む別子山について

別子山は1690年(元禄3年)銅山が発見され、以後1973年に筏津抗が閉山になるまでの約280年間に70万トンを生産し、この間住友家が一貫して経営し、日本の近代化に寄与し住友各社の礎となりました。

明治6年には足谷小学校ができ、以後、病院・商店・宿泊所・料亭・劇場等ができ、明治後期には12、400名余りとなり松山に次ぐ人口となり最盛期を

迎えますが、明治32年の山津波により大きな被害を受け、鉱脈も新居浜側に移るにつれ、旧別子時代の終息を迎え、人口は次第に減少し1973年の筏津抗閉山により銅山の歴史は幕を閉じました。

銅山閉山時の人口は542名となり、翌年には458名となり、多くの住民が別子山を離れていき、西日本一小さな村として平成15年の新居浜市との合併まで存続しました。

## 4つの自治会による地域活動

合併時270余名であった人口は10年間で170余名となつてしまひ、合併後も人口減に歯止めがかかりません。私



雪合戦

は連合自治会長に平成20年に就任しました。最初の目標はまず地域を美しくしようと考えました。そんな時他の自治会のメンバーにより別子山全体の草刈りをしようという話が上がり、4つの自治会で全体を4分割し、地域を挙げて草刈りを実施しました。今まで1つの目的で地域全体が動くことはあまりなかったと思いますが、約1日でほとんどの草刈り清掃は終わり、改めて地域力があることに感心しました。

この草刈りも年中行事として毎年実施しております。(県道委託事業として70万円余をいただいております)しかしながら、こういう活動はできても若者が定着できる地域には程遠い訳でありまして、限界集落には変わりないのです。

## 新しいイベントの計画、開催

平成24年度は愛媛県地域課題解決創出支援事業を受け、4自治会で話し合い1年間別子山ならではのイベントを実施して、より多くの人々に別子山を訪れていただくこととの思いで計画を立ててまいりました。

春は樹齢300年以上のエドヒガン桜の巨木の下、お花見&ライブを行い、周辺の草刈り・手すり・柵・ステージ・丸太の長い腰掛などを自治会のメンバーで準備して、当日を迎え、好天に恵まれ、屋台・うどん・焼きそば・猪鍋など準備し、

魚つかみ大会



ゆらぎの森から歩いて見に来られる人々には途中、お茶の接待、ステージでは川島翔馬さんのコンサートを  
実行し、480名の来場者があり、来て良かったとの声がたくさんありまし

た。このエドヒガンは後日市指定の天然記念物になりました。

夏には天体観測や魚つかみ大会なども実施し、美しい星空には250名の方が、魚つかみ大会には200名の方が来られて、また別子山の美しい夜空、銅山川での川遊び、子供たちは夢中で魚をつかんでいました。魚つかみ大会は毎年実施されることが市の協力で出来ることになりました。

秋には、巨大なブナの森へ案内して子供たちにブナの落ち葉の上を裸足で歩いてもらい自然と触れ合ってもらいました。別子山の紅葉を空から見ていただく為、遊覧へりも企画してりましたが、悪天候のため中止となりましたが、来年は是非やってみようとの声がたくさんありました。平成26年度には実施予定であり

ります。

冬は雪合戦です。前日からシヨベルカで雪を集めて準備し、多くの小学生・一般の参加により大変な盛り上がりでした。別子山にこんなに多くの子供たちの歓声が上がったのは、私たちが小学生の時、昭和30年代以来のことで感慨一入であり、ここにいる子供たちが全て別子山の子供であつたらと思えました。雪合戦には400名の参加があり、この行事も毎年実施することになりました。

1年間のイベントを通して地域住民の地道な努力により必ず活力がある別子山作りができることを実感いたしました。

平成25年度は合併10周年記念行事がありまして、5月には地域おこし協力隊の伊予市在住の富田さんや、長野県の企業組合の農家のおばあちゃん達（ジューズ生産販売他）との交流により、特別な人達ではなく、やれば自分たちにも手の届く所がある事を実感いたしました。

交流の後、市に地域おこし協力隊の派遣要請をしました。記念事業では前年同様、魚つかみ大会、8月には別子山始まって以来の有名人、歌手の加藤登紀子さんをお招きしてライブコンサートを行い、高知・徳島・県外の方もたくさん来られ、ゆらぎの森パーゴラの下（自称日本一の藤棚）で熱のこもった歌を披露していただき大変な盛り上がりでした。登紀子さんの実兄は住友金属工業の副社長であつたことをお聞きして、一層の絆を

感じ、帰りには是非旧別子山に登りたいと言つて帰られました。近い将来来てくれると思います。

平成26年1月には、市から地域おこし協力隊の募集に行つて来るように言われ、大阪と東京へ行き、6名の応募がありました。1名の若者が3月18日に赴任して来ました。10月にはもう1名の若者が来る予定になっております。彼らには過疎集落自主再生対策事業として、媛つこ地鶏の飼育、朝鮮にんじんの栽培、サトウカエデの植栽などを自治会のメンバーに実行していただき、活力のある地域作りを地域住民の総力を挙げ必ず成功させ、新しい別子山のスタートの年にしたいと考えております。



加藤登紀子ライブコンサート